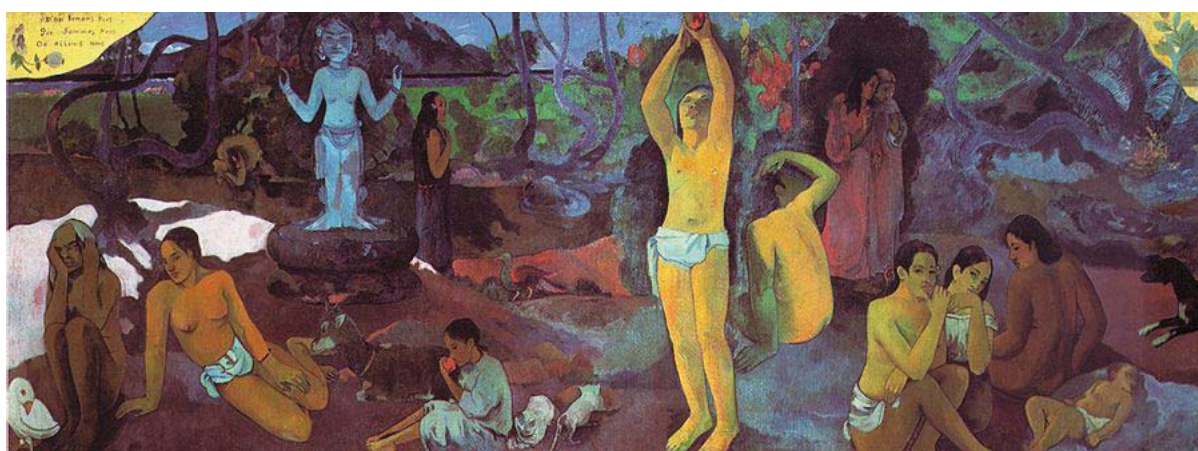


宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2010 vol.7

京都大学 文学研究科 宗教学専修 編

オンライン刊行物 <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/>

特集：ハンス・ヨナスと生命倫理の行方

(ウィリアム・ラフルーア教授追悼)

まえがき

杉村靖彦 (3)

Peripheralized in America: Hans Jonas as Philosopher and Bioethicist

William R. LaFleur (6)

ハンス・ヨナスと日本生命倫理をめぐって

—W. ラフルーア氏京大講演へのコメントを中心に—

安藤泰至 (28)

William R. LaFleur 教授の” Peripheralized in America:

Hans Jonas as Philosopher and Bioethicist” にたいする質問

品川哲彦 (43)

ヨナスは、なぜ、いかにして日本に「積極的に受容」されたか

——ラフルーアの見解と日本からの応答——

品川哲彦 (49)

公募論文

ナベールにおける「自己を問うこととしての自己を理解すること」

山内誠 (65)

レヴィナスの「顔の彼方」——無限責任の成就？

根無一行 (78)

編集後記

(115)

——宗教学研究室紀要編集委員——

氣多雅子	京都大学大学院文学研究科	教授
杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	准教授
細谷昌志	大阪大学	名誉教授
伊原木大祐	北九州市立大学	准教授

——第7号執筆者紹介——

杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	准教授
ウィリアム・ラフルーア	ペンシルヴェニア大学	教授（2010年2月逝去）
安藤泰至	鳥取大学医学部	准教授
品川哲彦	関西大学文学部	教授
山内誠	若狭医療福祉専門学校	非常勤講師
根無一行	京都大学大学院文学研究科	博士課程

**** 編集後記 ****

ラフルーア先生特集では安藤泰至先生、品川哲彦先生に、公募論文の査読審査では細谷昌志先生、伊原木大祐先生にご協力いただきました。諸先生方にはこの場を借りて改めてお礼申し上げます。編集作業の中でまず思い起こされたのは、先の講演会でのラフルーア先生のご様子でした。とりわけ会の後、先生が京都で学ばれていた頃のこと、以前の百万遍付近の様子などを楽しみに、気さくに語って下さったことが印象的でした。

（下田和宣記）

Articles

HANS JONAS AND QUESTIONS ABOUT BIOETHICS

In memoriam of William R. LaFleur

Foreword

Yasuhiko SUGIMURA 3

Peripheralized in America: Hans Jonas as Philosopher and Bioethicist

William R. LAFLEUR 6

The thought of Hans Jonas and Japanese bioethics:

Based on my comments on the lecture of W.LaFleur at Kyoto University

Yasunori ANDOU 28

Questions to Professor William R. LaFleur's

"Peripheralized in America: Hans Jonas as Philosopher and Bioethicist"

Tetsuhiko SHINAGAWA 43

Why and How has Hans Jonas been "Welcomed" in Japan? :

LaFleur's Interpretation and a Reply from Japan

Tetsuhiko SHINAGAWA 49

Le se comprendre comme le se questionner chez Jean Nabert

Makoto YAMAUCHI 65

L'«au-delà du visage» chez Lévinas: l'achèvement de la responsabilité infinie?

Kazuyuki NEMU 78